

# 日本自立準備ホーム協議会 設立記念講演会・シンポジウム(2022年3月21日開催) 参加者アンケート 結果報告書

日本自立準備ホーム協議会(日準協)設立記念講演会・シンポジウム(以下、イベントと表記する場合がある)終了後に、参加者へのアンケートを実施した。本報告書は、参加者アンケートの結果をまとめたものである。回答者の総数は72名である。なお回答者による記入内容のうち明らかな誤字については修正を加えたが、それ以外はいずれも原文ママである。

Q あなたが、今回のイベントに参加された動機はなんですか？(複数回答可)

イベントに参加した動機を、「林総長の話を聴きたかった」、「シンポジウムの内容に興味があった」、「シンポジストの話を聴きたかった」、「その他」の4つから複数回答が可能な形でたずねたところ、72名から回答が得られた。最も多かった回答は、「シンポジウムの内容に興味があった」の56名であった。以下、「シンポジストの話を聴きたかった」が42名、「林総長の話を聴きたかった」が35名、「その他」が5名であった。なお、72名の回答者のうち44名は複数の動機を回答していた。

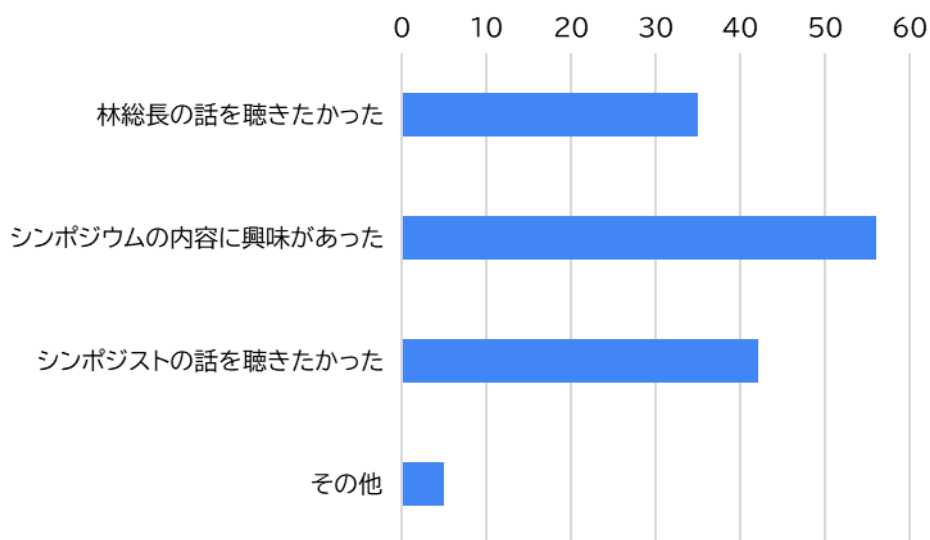


図1 イベントに参加した動機

その他と回答した方には、その内容を記述してもらった。記述内容は以下の通りであった。

- ・ 応援している。

- ・ 協議会のスタートを見届けたかった。
- ・ シンポジストの施設にお世話になっているので。
- ・ 日準協の設立を祝いたかった。
- ・ 主催者側の関係者として。

## Q 今回のイベントの開催をどのように知りましたか？(複数回答可)

イベントの開催を知った方法について、「チラシをみて」、「Facebook での告知をみて」、「Twitter での告知をみて」、「知人からの紹介を受けて」、「その他」の 5 つから複数回答が可能な形でたずねたところ、72 名から回答が得られた。最も多かった回答は、「知人からの紹介を受けて」の 43 名であった。以下、「Facebook での告知をみて」が 18 名、「チラシをみて」が 16 名、「Twitter での告知をみて」が 4 名、「その他」が 1 名であった。なお、72 名の回答者のうち 9 名は複数の方法を回答していた。

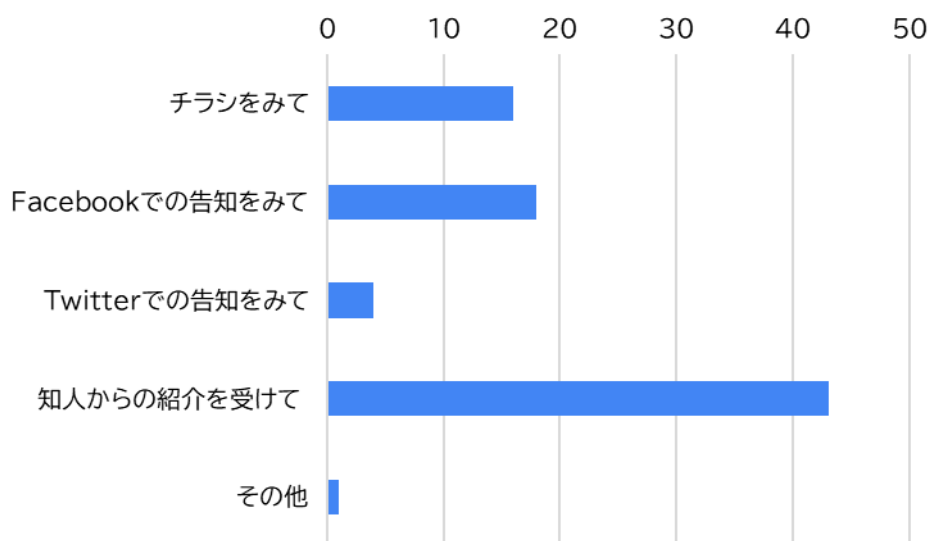


図 2 イベントを知った方法

その他と回答した参加者(1 名)には、その内容を記述してもらった。記述内容は以下の通りであった。

- ・ ネットで自立準備ホームを検索しました。

### Q 会場参加でしたか？ オンラインでの参加でしたか？

イベントへの参加形態について、「会場参加」か「オンライン参加」かをたずねた。72 名から回答があり、17 名が会場参加、55 名がオンライン参加であった。

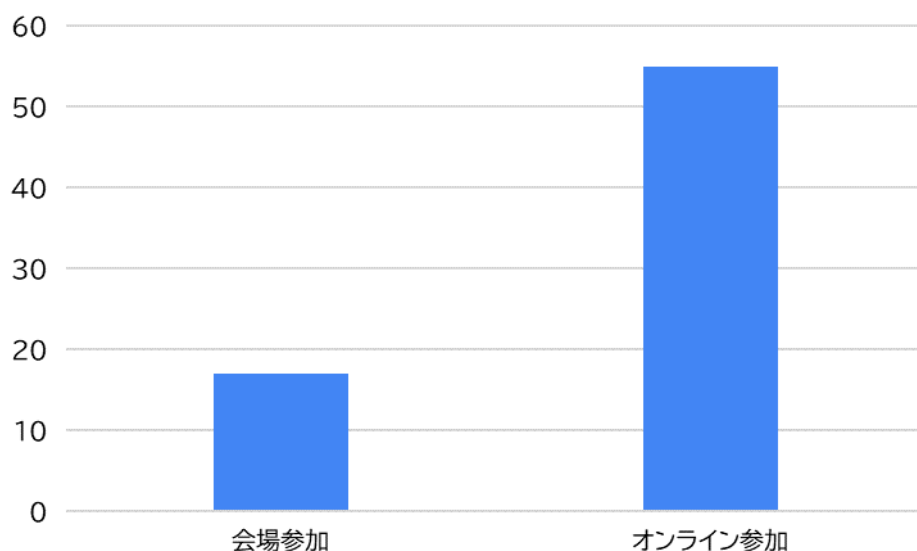


図3 イベントの参加形態

### Q 総合的にいって、今回のイベントは満足でしたか？

イベントの満足度を「非常に満足」、「満足」、「不満」、「非常に不満」の4つから1つを選択してもらった。71名から回答があり、「非常に満足」が29名、「満足」が33名、「不満」が3名、「非常に不満」が1名であった。「非常に満足」と「満足」を合わせた割合は、回答者の約87%であった。

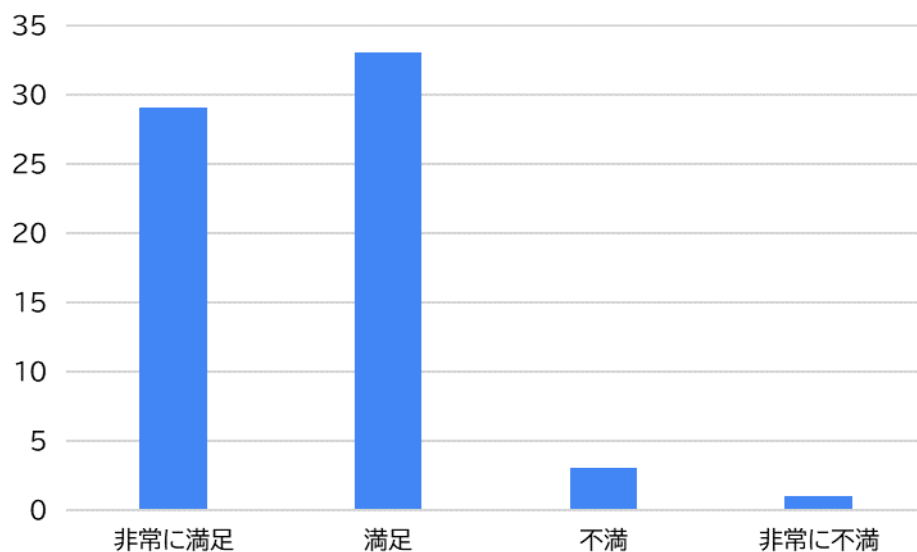


図4 イベントの満足度

Q 今回のイベントで、特に印象に残ったことはありますか？ 自由にご記入ください

イベントで印象に残ったことについて自由記述でたずねたところ、49名から回答が得られた。記述内容は以下の通りであった。

- ・ 福祉で働くものとして、福祉は刑事司法の下請けではないと言っただけのこと、司法と福祉は別々で異質であることを認識していく必要があるということが聞いて救われた思いです。明治からの法律改正に至る経緯、最終的に地域と司法をつなぐための改正と知り、法改正を期待します。
- ・ 林検事総長の間のつなぎ。
- ・ 刑法改正のお話し
- ・ 林総長のお話は勿論のこと、シンポジストの話が素晴らしかった
- ・ 林さんの話
- ・ 共感する課題がいくつかありました。
- ・ 自立準備ホームの経営の難しさ
- ・ シンポジウムで頭や体の洗い方がわからない子がいるという話。
- ・ 委託を受けた延人数がどこも少ない
- ・ 自立準備ホームのシンポジストのお話
- ・ 支援を必要とする人の現実的なお話はとても考えさせられました。今の平和な日本にもそういう人たちがいることが見えないことが大きな課題だと感じました。
- ・ 支援の難しさ、やりがい

- ・ 間をつなぐ、というキーワード
- ・ 刑事司法と福祉との接近具合が林氏の話で良くわかった。今後の展開に期待します。
- ・ 医療費の問題や生活保護申請への対応に困難があること
- ・ 行政の回答に誠意が感じられなかった
- ・ 野田さんの力強い挨拶
- ・ 自立準備ホーム運営の経験談
- ・ 自立準備ホームの実態、想い、要望等のお話
- ・ 生きにくさには、100 人いれば 100 通りある事を認識できました
- ・ どこのホームも個々に苦勞がありながらも真剣に更生保護に勤めておられる姿を見て感動しました。
- ・ この分野の仕事をしていない為、具体的なケースや支援のお話が聞けてイメージがつかまりました。実際に自分が住む地域にもこういった施設やボランティアができる機会があれば足を運んでみたいと思った。
- ・ パネリストから、これからは支援の選択肢を増やすことが必要、生活習慣を身に着けるための根気強い支援が必要とのご発表が印象にのこりました。
- ・ 保護局での話はきれいごとであり、実際は違う対応をされています。綺麗ごとを言っても何の意味もないと思います。
- ・ 刑事施設で就労支援をしています。立場は異なりますが、みなさん同じようなことで苦勞されていることがわかり、大変勇気づけられました。
- ・ シンポジウムの話の中で、生活保護申請について、自治体同士でたらいまわしがあるという件について、介護福祉に携わっていた私も経験があるので、どこも同じなのだと思います。
- ・ 林総長の講演
- ・ 自立準備ホームの存在は研修で知っていたような気がするが、具体的には全く分かっていなかった。また林検事総長のご講演は大変勉強になりました。
- ・ 受刑者が出所してからが大事だということを深く感じました。
- ・ ダルクの話が印象に残りました
- ・ 非行少年の更生に努められている施設、依存症からの脱却を支援している施設が主な対象なのかな。
- ・ 少しテーマがぼやけていて、あまり関係者でないものは浅く広く理解しました。設立されたメリットをもう少し知りたかったです。でも興味はあります。社会的養護に携わってきたので。
- ・ 林検事総長様の貴重なご講演を拝聴しながら、司法と福祉の連携について、雲仙で南高愛隣会の故田島良昭様も熱を込めてお話しなさっていたこと等々も思い出したりしておりました。今日、またお話を伺うことができましたこと、本当にありがたく存じました。またシンポジウムでは、皆様からさまざまなお話を伺うことができまして、いろいろと考え学ばせて

いただきました。ありがとうございました。

- ・ 検事総長が、矯正局での勤務経験から、犯罪をした者等の社会復帰支援に力を入れておられるお気持ちが伝わってきた。
- ・ シンポジストの皆様から具体的なご活動やケースに関するお話を伺えて大変勉強になりました。
- ・ 林さんが、福祉に再犯防止を期待してはいない、それは副次的なことと明言されたことです。
- ・ 色々な自立準備ホームの内情を知れた事
- ・ 刑法改正の意義と再犯防止、立ち直りとの関係。シンポジウムにて話された、現状と課題。
- ・ 林検事総長のお話、異質なものを繋ぐという意味が理解出来ました。特に福祉の側での再犯防止は間接的効果を考えればよくて目的とする必要はないという話は腑に落ちました。長く裁判に関わっていながら裁判以降を見て来なかったことの反省のもと今回の刑法改正に繋がられたことの意義は大きいと思います！
- ・ 総長講演で今般の刑法改正の意義の深さを痛感したこと、シンポジウムで自立準備ホームの全国ネットワーク組織が真に必要とされていることを肌で実感できたこと、日準協新役員の皆さんの士気の高さが伝わってきたこと、ぼっちゃんが元気でおられたこと、などに接し、大変印象深く有意義な機会であった。
- ・ 林総長の話は司法福祉の流れが良くわかって良かった。シンポジウムはそれぞれの自立準備ホームの特徴が良く分かって、興味深かった。自立準備ホームが既にある制度と結びついて地域に広まればよいと思う。
- ・ 林総長の基調講演。パネリストの方々のお話。
- ・ 野田さんの最後の挨拶。心がこもっていて誠実さが伝わり、さらに応援したくなった。
- ・ ①検事総長の更生と福祉の歴史的変遷、②自立準備ホームの現実の諸問題の発表
- ・ 林さんの入口支援批判への慎重なコメント。シンポジウムでの自立準備ホームの様々な困難。
- ・ 福祉側が再犯防止の責任を負わせられることになるのではないかの疑念を持つことの指摘
- ・ それぞれの施設の課題が聞けてよかった
- ・ これからもっと必要なサポートだとわかりました。脱施設には不可欠ですし、入所中に生活保護が受けられてスムーズに就労、自立生活に移行できるといいです。
- ・ 酒井先生もおっしゃったように、保護局の方の発言は力強かったと思います。法務省にはもっともっと予算を取っていただきたいと思います。もう何年も前のことですが、私の経験では、あまりにも事務的でお役所仕事の印象でした。現場に寄り添った熱い職員の方がほしいです。

Q 「日準協」の活動に対するご要望・ご意見等がございましたら、お聞かせください

日本自立準備ホーム協議会の活動に対する要望や意見を自由記述でたずねたところ、33名から回答が得られた。記述内容は以下の通りであった。

- ・ 大変なこともあるとは思いますが応援しています。一緒に何かできればよいなと思っています。
- ・ ここまでに至るご苦労に心から敬意を申し上げます。今後の活動に期待しております。
- ・ これまでの様々な苦労にも負けずに、先頭で取り組まれてこられた皆様のご努力が本当に素晴らしいと思いました。
- ・ 活動に興味があります。参画したいです。
- ・ 自立準備ホームの制度が発展していくことを期待しております。
- ・ 協議会加盟団体の増加がこの種の協議会には重要であり、加入インセンティブを明確にして進める必要があると思いました。
- ・ 困難が生じている実情についての発信をお願いします。
- ・ ご活躍を期待しています。
- ・ 現場の矯正職員をしていますが、更生保護、自立援助の知識が不足しており、どこから勉強してよいか分かりません。オンラインで研修の場を設けていただければありがたいです。
- ・ 連携を深めることで、対象者の個別のニーズに合った対応ができるようになることを感じました。
- ・ 頑張ってください！ひたすら応援してます。
- ・ 尊いお仕事、頭が下がります。更生支援、自立支援に関心のある者として、皆さんのお働きを尊敬します。今後とも、皆さんのご活躍をお祈りするとともに、私自身も学ばせていただき、少しでもお力になれることがあれば幸いです。
- ・ みなさん、ご健康に気をつけられてご活躍ください。
- ・ この活動は再犯防止の為になるのでこれからも、もっと深く取り組み続けてほしいです。
- ・ 自立準備ホームの連携を目指すのであれば、各自立準備ホーム施設への案内くらいはすべきだと思います。それもなく日本自立準備ホーム協議会と言われても、誰のために何をしたいのか、わかりません。
- ・ 賛助会員等の会費はどのように使われますか？案内にもう少し説明があれば良いと思います。
- ・ 更生保護に携わらせていただいておりますので、またお話を伺う機会もいただけるかと存じます。機会をいただけましたら、オンラインでも参加させていただきたいと考えております。

- ・ 自立準備ホームの横のつながり(ネットワーク)ができる日を心待ちにしていました。更生保護制度、助成金の算出方法等、自立準備ホームにとっては未だ厳しい状況・条件が続いていると思います。法務省は、自立準備ホームの資金的な余裕と職員の身の安全を保障しなければなりません。制度の改善を求めて、私たち行刑側からも声を上げていきたいと思えます。
- ・ 設立おめでとうございます。貴重なシンポジウムの機会をありがとうございました。自立準備ホームの連携が深まり支援が広がっていくことを嬉しく思います。自身も自立準備ホームを立ち上げたいと考えているため、立ち上げ支援なども行われると良いなと思いました。
- ・ 全国にある自立準備ホームの中には現在法人格を持たずに支援をしている施設が存在すると思うので法整備がされ登録にいろいろな基準が出来ないよう、全国の行き場のない人たちの生き場所を作れるような流れを作ってほしいです。
- ・ ゆるやかにつながっていくことはとても大切なことと感じています。
- ・ 横の繋がりを大切にうまく連携を取ってほしいです
- ・ 会員間での情報共有と連携による課題の対応。
- ・ ミッションや事業計画のとおり、地道に活動を継続して下さることを祈っています。
- ・ 自立準備ホーム在所中に地域で普通に暮らせる居場所を見つけることは大変な作業だと思います。地域の福祉関係者と良い連携をされることを期待します。
- ・ 全国の自立準備ホームが抱える問題の分類分けと標準的な対応策の提示を行うことで、各ホームの指針にすることが、第一段階ではないかと思えます。
- ・ 息の長い活動。すなわち困難を抱えている自立準備ホームへの支援や相談を受けられる態勢などを期待しています。
- ・ 全国の刑務所や少年院の受刑者、入院者に、自立準備ホームの所在地を記載した冊子やチラシを行き渡るようにしてほしい
- ・ 支援は重要で必要であり、活動には敬意を表します。それと、支援の前提は、被害者に対する謝罪と償いからだと思います。

## Q お住まいの都道府県はどちらですか？

参加者の居住する都道府県名をたずねた。集計にあたり、都道府県名を地域ブロックに変換した。67名から回答があり、最も多かった回答は、関東地方の29名であった。以下、中国・四国地方が13名、近畿地方が8名、中部地方と九州地方が7名ずつ、北海道地方が2名、東北地方が1名であった。



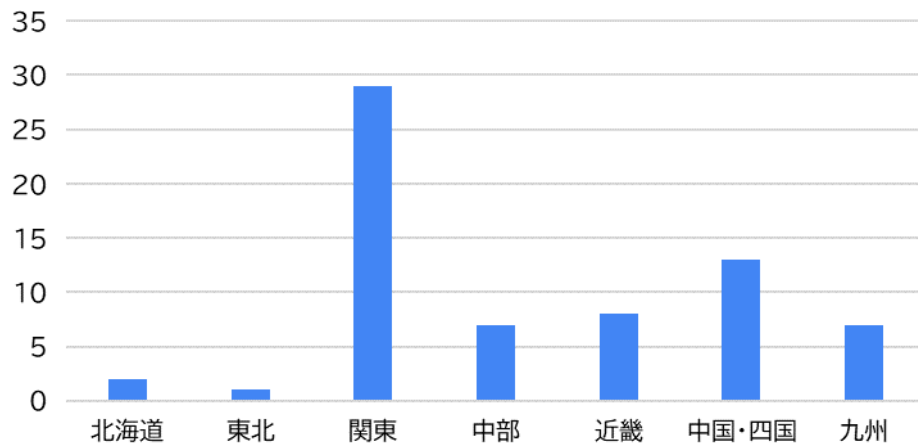


図5 参加者の居住地

Q あなたは、次のうちどれにあたりますか？ 主たるものひとつをお選びください

参加者の主たる属性についてたずねたところ、69名から回答が得られた。最も多かった回答は、福祉関係者の18名であった。以下、一般の市民が10名、更生保護関係の行政職員と保護司が9名ずつ、自立準備ホーム事業者関係者が7名、矯正関係の行政職員が6名、BBS関係者が3名、矯正・保護以外の行政職員、司法職員、研究者がそれぞれ2名ずつ、更生保護施設関係者が1名であった。更生保護女性会関係者と弁護士の参加者は0名であった。

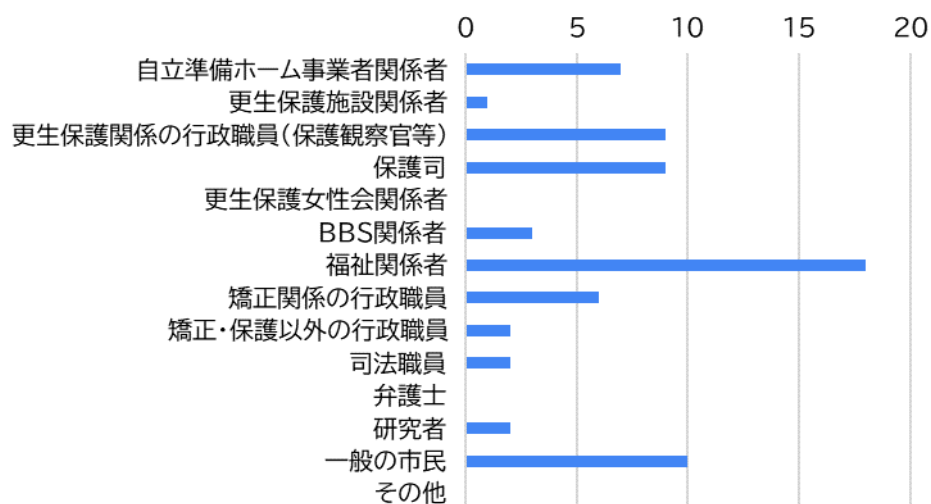


図6 参加者の主たる属性

## Q 今回のイベントに参加して「日準協」に加入したいと思いましたか？

参加者の属性をたずねた質問で、「自立準備ホーム事業者関係者」と回答した参加者に、日本自立準備ホーム協議会に加入したいかたずねたところ、7名から回答が得られた。結果は、「すぐ加入したい」が1名、「加入を検討したい」が4名、「加入は見送りたい」が1名、「すでに加入している」が1名であった。

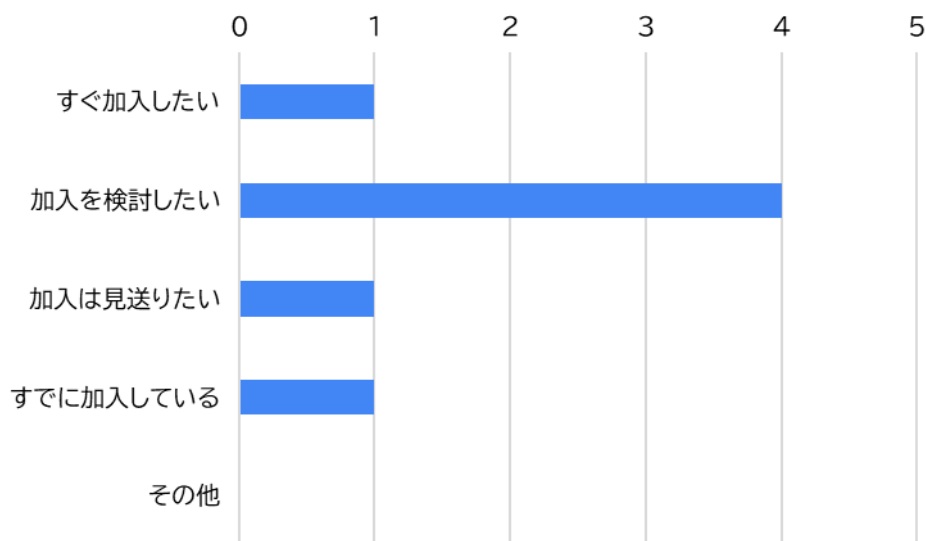


図7 日本自立準備ホーム協議会への加入意志

## Q 「日準協」に期待していることはありますか？ 自由にご記入ください

参加者の属性をたずねた質問で、「自立準備ホーム事業者関係者」と「更生保護関係の行政職員」と回答した参加者に、日本自立準備ホーム協議会に対する期待を自由記述でたずねたところ、11名から回答が得られた。記述内容は以下の通りであった。

- ・ 日準協様には、地域で立ち直ろうとする人たちに寄り添うにあたり、課題や解決策について発言、提案等をしていただくことをご期待申し上げます。スマホからは退場しますが、引き続きパソコンで視聴しております。
- ・ 経験の共有
- ・ 保護観察所とうまく連携していければ良いと思います。
- ・ 困難が生じている実情を発信していただきたいです
- ・ 課題を集約して政策として提言していただくこと。
- ・ 立ち直ろうとする人たちに寄り添っていくに当たり、課題となることや対策等について、御意見、御提言をいただけるものと期待しております。自立準備ホームが、行政、制度、他の

団体等との連携を深め、その活動がより充実していく上で大きな力となると思います。

- ・ 自立準備ホームを束ねるネットワークは必要だと思います。全国地域生活定着支援センター協議会のようなものを目指されているのであれば、目的を明確にして、目的に合った活動をしていただきたい。少なくとも全国地域生活定着支援センター協議会は、一部加入を希望しない定着を除き、ある程度のネットワークを作って交流の機会を作っていると思います。
- ・ いろいろと大変なことも多いかと存じますが、今後の皆様のさらなるご活躍に大きく期待をしております。
- ・ 支援方法の技術のシェア。困った時の相談や連携について。
- ・ 強力なリーダーシップと情報発信
- ・ 全国の自立準備ホームが、一枚岩となりしっかりと受け入れのサイクルを作り、出所者の行き先を確保できるようになることです。よろしくお願いします

#### Q 「日準協」について懸念されていることはありますか？ 自由にご記入ください

参加者の属性をたずねた質問で、「更生保護関係の行政職員」と回答した参加者に、日本自立準備ホーム協議会に対する懸念を自由記述でたずねたところ、3名から回答が得られた。記述内容は以下の通りであった。

- ・ 特になし。
- ・ 特にありません
- ・ 保護観察所ごとの違い、保護観察官ごとの違いが顕在化することになると思います。私たちの仕事への姿勢がこれまで以上に問われることになるでしょう。

アンケート集計 岡邊 健

(京都大学大学院教育学研究科教授・日本自立準備ホーム協議会理事)

報告書作成 大江将貴

(京都大学大学院教育学研究科研究員・龍谷大学犯罪学研究センター嘱託研究員)

報告書発行日 2022年(令和4年)5月31日